

Trends in Psychiatry

Theme

書籍 『都立松沢病院の挑戦 人生100年時代の精神医療』



書籍紹介

『都立松沢病院の挑戦
人生100年時代の精神医療』
著者：齋藤正彦
発行：岩波書店(2020年)

14年にわたる民間医療機関での先進的経営を経験した後、都立松沢病院に院長として就任した著者による、松沢病院140年の歴史と、院長としての9年間を記録した書。排除と隔離によって始まった日本の精神医療を振り返るとともに、現在の精神医療の前に立ちはだかる壁について、松沢病院の奮闘の記録とともに指摘する。

はじめに、「都立松沢病院の挑戦」発行の経緯についてご紹介ください。

2019年3月15日、私は精神科医の中澤正夫先生が主催される講演会に招かれ、「公立精神科医療機関がこれから果たすべき役割」をテーマとして、およそ1時間の講演を行っていました。講演終了後、聴衆の1人であった岩波書店の編集者から、「今、お話された内容を本にしま

せんか」とお誘いを受けたのが、本書を世に送り出すことになったきっかけです。

私は松沢病院で精神科医となり、20年を経て再びこの病院で院長として9年を過ごしました。2021年3月に院長を退官しましたが、本書は、職業人生最後の舞台となった松沢病院の、140年に及ぶ歴史に関する私なりの解釈と、病院長として勤めた9年間の記録となります。

著書前半では、松沢病院の歴史を通じ、日本の精神医療を振り返っておられます。

本書における松沢病院140年の歴史については、岡田靖雄著『私説松沢病院史 1879～1980』（岩崎学術出版社、1981年）、金子嗣郎著『松沢病院外史』（日本評論社、1982年）による記述を参考にしています。

松沢病院は、1872年の営繕会議所付属養育院の設立に始まり、